

平成30年度 農林部 方針書

農林部長 柿崎 浩之

1. 部の使命（役割）

多角的な農業振興を推進し、横手市農業の持続的維持・発展を図る。

2. 平成30年度における課題（前年度の振り返りから）

- ・平成30年度に於ける米政策の円滑な推進。
- ・新規就農者等の確保・育成。
- ・旧大雄中に於ける拠点整備の円滑な実施と拠点の有効活用に向けた推進体制の構築。
- ・実験農場に於ける種苗生産機能の強化と担い手となる農業経営者の育成。
- ・昨年の豪雨により被災した農地・農業用施設及び林道の復旧。

3. 平成30年度の『スローガン』

『未来農業の創造に挑戦』

4. 年度目標となる方針（目標）

- ・多様性のある複合産地化の更なる推進と担い手の確保・育成。
- ・需要に応じた米生産と「米」関連事業の円滑な推進。
- ・よこて農業創生大学事業の円滑な推進。
- ・農林業インフラの復旧と整備の推進。

5. 重点取組項目

(1)	項目	多様性のある複合産地化の更なる推進と担い手の確保・育成
	取組内容	・重点振興作物等への作付誘導に加え、「しいたけ販売三冠王獲得事業」等を円滑に実施する。 ・果樹強靱化対策を継続すると共に、市独自にパワーアシストスーツや高所作業車等の導入支援を実施することで果樹産地の更なる体質強化を図る。 ・担い手の確保・育成に向け、「国・県」事業を有効に活用しながら、新たに首都圏・仙台圏で開催される就農相談会へも積極的に参加し人材の掘り起しを図る。 ・集荷業者・団体との連携を強化し、需要に応じた米の生産が円滑に行える環境づくりを推進する。 ・色彩選別機の導入支援に加え、新たに「産業用ドローン導入支援事業」を実施し、横手産米の品質向上（一等米比率の向上等）を図る。
(2)	項目	よこて農業創生大学事業の円滑な推進
	取組内容	・来年度からスタートする地域価値創造拠点の円滑な稼働に向け、着実な拠点整備及び拠点の有効活用に向けた推進体制を構築する。 ・JA及び大学等と連携を深め、実験農場に於ける農業研修機能と農業経営者向け講習等の充実・強化を図る。 ・地域価値創造拠点の稼働を見据え、地域種苗センターに関わる生産機能等の強化を図る。
(3)	項目	農林業インフラの復旧と整備の推進
	取組内容	・昨年の豪雨により被災した農地・農業用施設及び林道の復旧を着実に推進する。 ・ほ場整備・かんがい排水整備及び林道整備等のインフラ整備を国・県等の関係機関と連携し、円滑に推進する。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

- ・重点振興作物等への作付誘導及び「しいたけ三冠王事業」の円滑な実施を図った。
- ・雪害及び風害対策としての果樹強靱化関連事業を推進すると共に、パワーアシストスーツの導入支援にも積極的に取組み新たな実績に繋がった。
- ・仙台圏で開催された就農フェアに参加し、新規就農者の掘り起しを図っている。
- ・国及び県からの「米」関係情報をリアルタイムで各集荷業者及び団体等へ提供した。
- ・スマート農業への取組みとして産業用ドローン導入支援を円滑に実施し、作業効率の向上や米の品質向上に繋がった。
- ・農業創生大学事業（ハード及びソフト）を関係団体等と円滑に推進している。とりわけ園芸推進協議会を5月に立上げ、各分科会を開催しながらアクションプラン策定に向けた取組みを推進した。
- ・地域種苗センターの方向性についてJAと具体的な話し合いを進めている。
- ・農地農業用地施設に於いて、入札不調の工事案件が生じている。
- ・ほ場整備、かんがい排水整備等のインフラ整備は円滑に推移している。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

- ・引き続き重点振興作物等への作付誘導及び「しいたけ三冠王事業」の円滑な推進を図って行く。
- ・風害及び雪害に関する果樹の災害対策を的確に実施して行く。
- ・首都圏等で開催される就農相談等に参加し、新規就農者の掘り起しを継続的に実施する。
- ・「米」関係情報の提供を継続的に実施する。
- ・引き続き農業創生大学事業（ハード及びソフト）の円滑に推進する。園芸推進会議を適宜開催し、実効性のあるアクションプランの策定を図る。
- ・地域種苗センターの方向性を具体的に決定していく。
- ・入札不調の工事案件について可能な限り年度内工事完了を目指すなど、的確な対応を図る。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

- ・重点作物等（重点振興作物 8品目、振興作物 12品目）への作付け誘導を継続的に実施した。次年度は取組み面積を維持するケースも助成対象とする市単独事業を活用し、全体的な底上げを図る。
- ・「しいたけ販売三冠王獲得事業」を円滑に実施したことで、30万菌床の増加が見込まれる。課題である廃菌床対策を生産振興と同時並行で取組む必要がある。
- ・果樹強靱化対策として、高所作業車等への助成に加えパワーアシストスーツ7台、腕上げラック10台への導入支援を実施した。また、台風被害への対策も迅速に実施するなど、今後も果樹産地の復興に向けた各種対策を継続していく。
- ・今年度新たに首都圏で就農相談を実施したことで、県外からの新規就農希望者1人の掘り起こしに繋がった。
- ・需要に応じた米生産に向け、各種情報提供及び農業再生協議会等での協議を継続的に実施した。
- ・産業用ドローン導入支援事業において、機体及び免許取得に係る助成を実施した。（ハード10件、ソフト8件）色彩選別機の導入支援と相俟って、一等米比率 96%を確保した。
- ・農業創生大学事業では、狐塚エリアのハード整備に加え6次産業支援に向けたスタートアップ事業を円滑に実施した。
- ・JAとの連携協定に基づく園芸振興推進会議を昨年5月に設立した。関連した各分科会では、実効性の高いアクションプランの策定に向けJA等と協議を重ねた。（2月下旬策定完了）
- ・JA及び大学等との連携を図り、各種講習会の開催等、研修プログラムの充実を図った。今後は市内の農業法人等と連携した農業研修の実施を図っていく必要がある。
- ・地域種苗センターに関わる生産機能等の強化に向けたJAとの協議を円滑に実施した。
- ・被災農地農業用施設の復旧を着実に実施し、一部入札不調関連の案件は次年度に繰越しとなるが営農に配慮した対応が必要となる。